

## 未来創造会議(第2回議事録)

■日時:令和8年6月8日(月) 12:00~12:45

■場所:中之島センタービル 29階及びオンライン

### ■次第

- 1.開会
- 2.万博で披露された最先端技術等の実装化・産業化について
- 3.未来創造会議を運営する新たな法人について
- 4.広域観光促進に向けた取組みについて
- 5.閉会

■出席者(敬称略): (※)オンライン参加

#### 《委員》

松本 正義 公益社団法人関西経済連合会会長【代表】  
鳥井 信吾 関西商工会議所連合会会長・大阪商工会議所会頭【共同代表】  
三笠 裕司 一般社団法人関西経済同友会代表幹事  
武田 家明 近畿経済産業局長  
三日月 大造 関西広域連合広域連合長(※)  
吉村 洋文 大阪府知事  
横山 英幸 大阪市長

#### 《オブザーバー》

松山 泰浩 経済産業省首席国際博覧会統括調整官

### 【関西経済連合会 関専務理事】

それでは、ただ今より、「第2回未来創造会議」を開催いたします。本日はご多用のところ、お集まりいただき、誠にありがとうございます。本日、司会進行をつとめます、関西経済連合会の関です。どうぞよろしくお願いいたします。会議の出席者につきましては、時間も限られておりますので、お手元の「資料 | 委員名簿」の配付をもって代えさせていただきます。

会議開催にあたり、松本代表よりご挨拶をお願いします。

### 【松本代表】

みなさん、こんにちは。

大変お忙しいところ、ご参集いただきまして、誠にありがとうございます。関西経済連合会の松本でございます。3月末に第1回未来創造会議を開催してから、今日までの約2か月間で万博レガシーの展開に向けた動きが大きく前進しております。

4月末の経済産業省による万博の成果検証委員会において、万博の成果及びレガシー展開の方向性や、剰余金の活用方針を報告書案の形でまとめていただきました。その中で、大阪・関西ワイドで取組むものについても、使途・実施体制を検討・決定する枠組みとして、この未来創造会議を位置づけていただいております。また、先月末には未来創造会議で決定した事項を具体的に推進していく体制として、運営委員会および事務局を設置いたしました。運営委員会の委員長には関西経済連合会の関専務理事、副委員長には大阪商工会議所の近藤専務理事に務めていただくこととなりますが、ぜひオール関西の力を結集して、中長期的に大阪・関西のプロジェクトを支援していただきたいと思っております。

本日は、万博で披露された最先端技術等の実装化・産業化に向けた検討状況や、未来創造会議を運営する新たな法人の方向性を中心に、意見を交換してまいります。未来創造会議の活動として、当面は最先端技術等の実装化、産業化に取り組んでまいります。

第1回会合では、支援していく大まかなテーマを確認しましたが、本日は、支援していく分野や、先行プロジェクトごとに誰がどのような時間軸で進めていくのかについて検討を深めてまいります。

経済産業省より、松山首席国際博覧会統括調整官にお越しいただいております。ありがとうございます。国の政策パッケージと連携・連動させて取組みを進め、我が国の成長・発展に繋げていきたいと考えております。

また、将来的には剰余金を継承していく新たな法人では、この法人が推進していく事業、法人のあり方、今後の検討スケジュールについて意見交換したいと考えております。そのほかにも、繋がり・交流の輪を広げる万博レガシーとして重要な広域観光についての報告が行われる予定としております。万博レガシーを後世にしっかり継承・展開し、大阪・関西ひいては我が国の発展に繋げていくため、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

#### 【関西経済連合会 関専務理事】

ありがとうございました。

それでは、以降の議事進行について、松本代表にお願いいたします。

#### 【松本代表】

それでははじめに、「資料2 万博で披露された最先端技術等の実装化・産業化」について、近畿経済産業局武田局長より説明をお願いします。

#### 【近畿経済産業局 武田局長】

資料2に従いまして、武田よりご説明申し上げます。まず1ページ目でございます、実装化に取り組む分野の選定でございますが、これは令和7年11月に国が策定した成長戦略の重点投資分野との整合性を基本とし、有識者の意見も踏まえて設定しております。

加えまして、同年6月に近畿経済産業局が作成しました「関西における成長分野・ポテンシャルマップ」を参照し、万博を契機に披露された最先端技術のうち、関西が強みを有する分野を対象としております。

プロジェクトリーダーの選定では、専門的な知見と実績に加えまして、国内外のネットワークや強いリーダーシップを重視しております。

また、プロジェクトの選定にあたりましては、万博理念に沿った最先端技術であること、世界に伍する強みを有す

ること、概ね5年程度で社会実装が見込まれるものを軸に判断しております。

2ページ目、こうした基準を踏まえ、先行分野として次世代モビリティ、再生医療等、スタートアップの3つを設定しております。カーボンニュートラル分野につきましては、第3回の次回の未来創造会議での決定に向けて、引き続き検討いたします。

3ページ目、次世代モビリティ分野では、すでに官民の協議体により、ロードマップや将来ビジョンが共有され、民間主導の実装化の動きが進んでおります。そのため、当面は個別のプロジェクトリーダーを置かず、既存の枠組みや取り組みを活用して実装化を加速します。具体的には、万博でのデモフライトやバーティポート整備の知見を生かし、空飛ぶクルマの商用運航に向けた取り組みを着実に推進してまいります。

4ページ目でございます。支援の枠組みは、案件ごとに事業者、自治体、国、支援機関が連携する体制で進め、プロジェクトを推進する上での課題等を未来創造会議に集約し、制度対応につなげます。

今後は、運行ルートや離着陸場、サプライチェーンの構築、社会受容性の向上等の環境整備を段階的に進め、複数事業者による2地点間運航の実現を目指すとともに、本格導入に向けた事業環境の整備も重点的に支援してまいります。

5ページ目でございます。続きまして再生医療分野でございます。iPS 細胞を活用した未来医療の実装化に向けた取り組みを、プロジェクトに選定しております。iPS 細胞は、万博でも注目された日本発の最先端技術であり、関西の強固な研究基盤を背景に、今後の社会実装が期待される国際競争力の高い分野であること、また、市場拡大が見込まれる中、優位性を生かし実装を加速することが重要であることが、選定理由でございます。プロジェクトリーダーには、アカデミア、臨床、産業の各側面において卓越した実績を有し、iPS細胞由来の再生医療等製品として世界初の承認となる心筋シートの実用化に取り組まれるなどの実績を有する澤芳樹氏を選定しております。

6ページ目でございます。再生医療等の社会実装に向けては、プロジェクトリーダーのもと、(1)有望なシーズの発掘・事業化、(2)事業成長および資金調達、(3)サプライチェーンの構築、(4)治験・市販後調査の4つの段階に応じて、(1)シーズ探索、(2)資金投入、(3)市場参入促進、(4)医療機関ネットワークの構築などの支援を実施してまいります。各ステップにおける支援ロードマップのイメージは下の表のとおりでございます。それぞれの成長フェーズに応じた一貫通貫の支援を展開してまいります。

まず、社会実装に近いステージとして、条件および期限付承認を受けた2つの再生医療等製品について、iPS細胞由来製品として世界初となる本承認の獲得を目指します。そのために、医療機関ネットワークの構築を通じた治療データの蓄積等による治験環境の整備を進めてまいります。

あわせて、研究開発初期のステージにおいても、この2製品に続く大阪・関西における有望なシーズの社会実装も促進します。新たなシーズの発掘や事業化支援を進めるとともに、さらなる再生医療等製品の承認申請につなげる等、革新的な製品を継続的に創出し、再生医療の普及拡大を図ります。

7ページ目でございます。最後にスタートアップ分野でございます。関西のスタートアップ・エコシステムの中心的存在である田中邦裕氏を、プロジェクトリーダーに設定しています。

具体的なプロジェクトは、新事業共創ファームによる開発から販路開拓までの一貫支援とディープレック・エコシステムの構築による社会実装推進の2点でございます。

8ページ目でございます。プロジェクト①でスタートアップの共創と協業および実証の場を整備し、それ以外の課題をプロジェクト②で取り組みつつ、ポストGSEを継続開催することで国際連携と情報発信を強化します。プロジェクトリーダーとコーディネーターには、プロジェクトに対する指導・助言をいただくとともに、エコシステムのプレイヤーに対して、プロジェクト参画や連携を働きかけていただきます。

9ページ目でございます。両プロジェクトのロードマップにつきましては、プロジェクト①ではスタートアップの創出から実装まで伴走支援を行います。プロジェクト②では、2029年度末時点でのネクストユニコーン創出と、ポストGSEの定着を目指してまいります。

最後に10ページ目でございます。今後は8月頃に開催予定の第3回会議で、カーボンニュートラル分野と新たなプロジェクトの支援方針を決定し、第4回会議にて先行プロジェクトの進捗をご報告する予定でございます。以上でございます。

#### 【松本代表】

はい、どうもありがとうございました。それでは、ただいま説明がありました件につきまして、ご意見・ご質問のある方は挙手をお願いいたします。

#### 【鳥井委員】

大阪商工会議所の鳥井でございます。

万博で披露された最先端技術等の実装化に向けて、事務局の皆さんには取りまとめを大変ご尽力いただきました。感謝申し上げます。

万博のレガシーとしての本提案には賛同いたします。特に、空飛ぶクルマの商用運航は次世代モビリティをつくっていくこととございますし、再生医療についても次世代の先端医療を大阪・関西から進めるということであり、同時に先ほどお話ありましたが、大阪・関西こそが、基礎研究において誠にふさわしいと考えております。また、スタートアップのエコシステムをつくっていくというお話もございました。若い世代が技術革新を起こし、起業、業を興すということ。イノベーションを生んで、マネージメントを開き、これを両立させていく、ということになると考えます。

大阪商工会議所といたしましても、京都と神戸の商工会議所とともに、新事業共創ファームの事業を立ち上げるべく準備を進めておりまして、3会議所合計で5万5千の会員がいます。関西の71商工会議所では19万人会員がおられまして、そのネットワークも生かして、私ども大阪商工会議所の会頭が関西商工会議所の会長も務めておりますので、連携しながら新たな技術・サービスの社会実装を全力で支援してまいりたいと考えております。以上でございます。

#### 【松本代表】

はい、どうもありがとうございました。他にありますでしょうか。

【近畿経済産業局 武田局長】

先ほどの説明に関連して、国の動きを補足させていただきたいと思います。資料2に続きまして参考と四角で囲った資料をご覧くださいと思います。

政府におきましては、地域未来戦略の検討が進められておりますが、5月18日には、地域未来戦略に関する関係副大臣等会議が官邸で行われたところでございます。

その中でも、北海道と近畿の2地域のみが戦略産業クラスター計画の素案について、総理に報告する機会をいただき、本日参考として配付しております資料をもとに私より説明をいたしました。空モビリティ・宇宙、バイオ・ライフサイエンス、GXの3分野を柱にして、近畿地域の戦略産業クラスター計画の素案は万博レガシーを新たな産業の核としていくことを目指したものであり、今回このような発言の機会をいただいたことは、万博レガシーの実装化・産業化に向けた政府の期待の表れであると感じているところでございます。

今後、クラスター形成に向けた支援策の具体像が明らかになっていくものと考えておりますけれども、こうした国の施策も最大限活用しながら、実装化に向けた各プロジェクトを着実に推進し、万博レガシーの社会実装につなげてまいりたいと考えております。

また、先ほどご説明した先行プロジェクトにとどまらず、今後は大阪・関西の各地から新たなプロジェクトが次々に創出され、未来創造会議の取組みとして支援することで、万博で展示・実証された新技術の実装化・産業化が進展することを期待しております。

以上でございます。

【松本代表】

はい。どうもありがとうございます。それでは三日月委員、お願いします。

【三日月委員】

ありがとうございます。大変夢のある、そして大阪・関西万博を開催させていただいた当地として、しっかりと進めていかなければならない課題だと思っております。

先ほど、鳥井会頭からも京都・神戸のみならず、71の商工会議所、そして19万人というお話もありましたので、ぜひ関西広域連合としても、この取組みが広く多くの方々のご参画を得られるように、先ほど武田局長からご説明のあった次世代モビリティ、再生医療、スタートアップの各シーズを拾ってつなげる、そして芽を見つけ、水をやって育てていく、こういう視点を持ちながら、概ね5年間で成果をあげられるという基準がありますので、そういったことを念頭に置いて、広域連合としても積極的に参画していきたい、また参画させていただきたいと思っております。

カーボンニュートラルについては次回ということでしたが、水素に関しても万博で相当様々な発信がされていきました。今回はないなと思っていましたが、「水素大動脈構想」の動きもありますので、こういったことに対する展望も次回に期待したいと思います。以上です。

【松本代表】

はい、どうもありがとうございました。それ以外ありませんでしょうか。

### 【松本代表】

万博にかかった期間は7年間と記憶しておりますが、5年間というのはあっという間に過ぎていくという認識のもとアイデアを出し、体制を整えていく必要があります。

既に実用化の目前に移っているものについては、ルールをどう決めるかとか、実業家に頼んでこれをまずスタートアップしていくという初期アクションが非常に重要ではないかと思っております。

空飛ぶクルマは、既にものができており、それをリファインして、コストダウンして、実際に活用できる形にしていくというのは、メーカーそれぞれが努力して取り組んでいるので自然に進みます。あとは、どのようなレギュレーションでどのようなルールを作っていくかということになり、5年間ぐらいでやらないといけません。ただ、再生医療等については、非常に深いチャレンジであると思うので、そのあたりは柔軟に考える必要がありますし、これから組織をきちんと作っていく中で、正確に時間軸を設定する必要があります。

もう一点、万博レガシーの展開は万博開催よりも難しい問題をかかえていると感じています。万博の黒字(剰余金)の金額をどのように使っていくのか、どれだけのアイテムをこれから皆さんが提示してくるのかもわからない中で、経済界としても金銭面からバックアップする必要がある、アフター万博の大プロジェクトであるという認識で、私も議長を引き受けました。是非、意見を出していただきたいと思えます。アイデアを出し、ストーリーをつくり、実行段階でどのような形で、大阪府・大阪市、経済界、政府が本当にサポートしていくというのをこれから目で見ていかななくてはならないと思っております。今日は意見を出し合いました。実行段階においては少しきつくなるかもしれませんが、アフター万博の宝物として、この企画・プロジェクトを成功させていきたいと思っております。

### 【松本代表】

他にございませんでしょうか。吉村委員お願いします。

### 【吉村委員】

松本代表おっしゃる通りで、どうやって実行していくのかは非常に重要だと思います。組織のあり方、それから、万博の黒字だけではとてもじゃないけどこれだけのことをどんどん進めていく形にはなかなかならないと思うので、これは大阪府市でも、どのように支援して事業を生かしていくのかをやっていく。これは Beyond EXPO もそうですし、様々な事業でもそうだと思います。これは同時に国においても、様々な支援の在り方、バックアップの仕方を実行していかないと、再生医療にしても、空飛ぶクルマにしても、カーボンニュートラルにしても加速度的に進めていくのであれば、そのエンジンが非常に重要になってくると思います。

まずここを頭脳部門にしながら、関西全域で万博レガシーを実行していこうではないかというのをしながら、ちゃんとした組織と体制を国・府市・経済界の皆さんと協力して、どうやって実現させていくのか、実行していければと思います。

近頃のイベントとしては、来月に World Health Expo を開催いたします。これはライフサイエンス系の国際会議・展示会になります。万博期間中に一回開催させていただいて、私も出席させていただきました。その後継の国際会議・展示会ということで、スタートはそれほど大きくないにしても、しっかり先ほどの GSE と一緒に育てていきたいと思えます。これはライフサイエンス分野ですから、今回も万博レガシーに大きく関わると思えます。

また GSE についても今年の秋に開催を決めていますので、関係者の皆様のご協力をお願いしたいと思います。  
また、武田局長におかれましては、武田局長は万博誘致の時からずっと一緒にさせていただいて、今は近経局長ということで、重要な立場にお就きいただいているのでありがたいというふうに思います。

そのうえで、国の代表ということでもあると思いますので、先ほど国の話もありましたが、クラスターを地域で形成していく、そのときに、これからデジタルデータが非常に重要になっていく、デジタルインフラがすごく重要になると考えています。デジタルインフラを強化していく、データセンター等も含めてそういったことも大阪府市として取り組んでいこうと考えています。そして、国のクラスター形成に向けた計画の中に入れていただければと思いますのでよろしくをお願いしたいと思います。

#### 【松本代表】

はい、どうもありがとうございました。まずは、アイテムを整理して、結果を出していく。これは鉄則でやろうと思っています。結果を出してそして皆さんに披露していく、2025 年の大阪・関西万博の宝物として大阪に残っていく。そしてそれが大きくなって経済の活性化へと結びついていくものと考えております。我々も結果を出して、努力してまいりたいと思います。他にございませんか。

それでは、ただいま頂戴しましたご意見も踏まえ、この方向で実装化・産業化の取組みを進めていただきたいと思います。

続きまして、「資料3 未来創造会議を運営する新たな法人」について、大阪府 彌園政策企画部長より説明をお願いします。

#### 【大阪府 彌園政策企画部長】

ありがとうございます。大阪府政策企画部の彌園でございます。それでは、お手元の資料3の未来創造会議を運営する新たな法人についてご説明いたします。

まず、1 ページをご覧ください。ここには法人設立の目的等を記載させていただいておりますけれども、次に2ページになります、内容を模式化した資料を付けさせていただいておりますので、主にこちらをご覧くださいと思います。

法人設立の目的といたしましては、まさにこの未来創造会議が目指す方向性と一致しておりまして、持続可能な成長発展の実現、世界が直面する課題解決への貢献、また大阪・関西のプレゼンス向上を実現していくことを目的にしていきたいと考えております。

その達成に必要な視点といたしましては、その下書いてありますとおり、次世代に響く情報発信のあり方、海外への情報発信に伴う交流・つながりの拡充、関西全域でのプロジェクトの推進の3つの視点を意識して進めてまいりたいと考えております。

またその下に、法人が推進する事業を書いているわけですが、まずは成果検証委員会の報告書を踏まえた万博レガシー展開に関する事業や、博覧会協会の活動を継承する事業に加えまして、法人の設立目的を達成する事業はもとより、収入確保につながる事業を担う方向で考えております。

次に3ページをご覧ください。当面の事業展開イメージということで、上段に考え方、下段に時間軸に関する内容を記載させていただいておりますけれども、最先端技術等の実装化・産業化を着実に進めながら、スタートアッ

プや国際会議の継続開催に加え、広域観光等の取組みを推進していきたいと思っております。

さらに、記念公園ゾーンの開設後は、夢洲での万博関連イベントを始め、残置したリングや記念館を活用したレガシー発信事業も進めていきたいと考えております。

資料の4ページをご覧ください。想定する法人の種別について記載しておりますけれども、法人設立に当たりましては、協会の定款によりまして、剰余金を含む残余財産の帰属先は国・地方公共団体、または公益法人等に限定されるということが規定されております。したがって、その下にもありますとおり、公益社団法人あるいは公益財団法人を想定しておりますけれども、博覧会協会の事業承継のあり方とあわせて、今後、関係者で検討していくことと考えております。

最終の5ページをご覧くださいまして、法人化のスケジュールを記載しておりますけれども、2段目にございますとおり、次回の第3回会議におきまして新たな法人のあり方を報告させていただいたうえで、来年1月の第4回会議におきまして、関係者による新法人の設立趣意書を決定していきたいと考えております。

説明は以上でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 【松本代表】

ありがとうございました。それでは、ただいまの資料3の説明につきまして、ご意見・ご質問等ある方は挙手をお願いできますでしょうか。

#### 【松本代表】

この組織はレガシーという全般的なことをする組織であります。

例えば、国際交流というのは一つのレガシーを遂行する経過として出てくる可能性があります。VIP が万博を見に来られて、交流・つながりをこれからもやっていきましょう、というのは one of them かと思います。

この会議を運営する新たな法人の中に、どこをポイントとした法人にするのかということがないと、オールラウンドなことを言われても、限られた人員、限られたお金、限られた時間の中で、何ができるのかと、しかもそれは、大阪・関西の経済の活性化、皆さんが元気になるようなことを、本当にコアポイントにプッシュしているのかということも考えないといけません。

やろうと思えば、組織はいくらでも大きくなってしまいますので、我々としては何をするのかということがまずあって、それを敢行するために組織をどう考えるかということをしないと、今後、組織・法人ができると思っているが、ものすごい人間がこの中で用意されていくということになるのではないかと思います。オールラウンドにできるのかと。大阪・関西、武田さんもジョインされているけれども、やはり焦点を絞ってやっていかないといけないと思います。しかも、5年間、永遠に続くようなプロジェクトではないので、なかなか難しいのではないかと思います。

#### 【大阪府 彌園政策企画部長】

ありがとうございます。まさに今おっしゃったとおりだと思います。スピード感を持って、選択と集中という観点から、関係者で法人がどういうふうなことをすべきか、またその下での体制はどうあるべきか、ということにつきまして認識を合わせながら進めてまいりたいと思います。

【松本代表】

この未来創造会議の将来にできる組織とはちょっと離して、これは関西広域連合にやってもらうなど、そういったかたちを取った方がいいものもあります。なんでも放り込んでくるのでは組織がもたないかもしれません。

他にございませんでしょうか。どうもありがとうございました。それでは、ただいま頂戴しましたご意見も踏まえて、この方向で検討を進めていただきたいと思います。

続きまして、「資料4 広域観光促進に向けた取組み」について、関西経済連合会 関専務理事より説明をお願いします。

【関西経済連合会 関専務理事】

お手元の資料4に沿いましてご説明させていただきます。大阪・関西万博などを契機といたしまして、海外における関西の認知度が高まっております。関西観光本部の調査によると、認知率、訪問意向率の変化が資料左側に示しております。こうした流れを生かしながら、関西各地への誘客など広域観光の促進を大阪・関西万博のレガシーの一つとして位置づけ、観光産業を関西経済を牽引する産業の一つへと発展させることが期待されております。

そこで、本年4月、関西観光本部において広域インバウンド振興の取組みを強化するべく「関西ツーリズムブランドデザイン 2030」を策定しました。この中では資料右側の中ほどに示されております、4つのアクションに取り組むことになっております。まず、関西のブランド力向上のために、海外の主要な商談会などへ出展や、ミッション派遣などを行います。また、関西に誘客するツーリズム開発のための、コンテンツの充実や商品造成支援などを行います。さらにデータに基づく戦略策定ができるよう、さまざまな移動データ・消費データ等を収集・分析する仕組みを整えてまいります。また、右側中ほどに記載のとおり、今般、京都府に、企業版ふるさと納税の仕組みを整えていただきまして、企業からの支援を得て、京都府と関西観光本部が連携して誘客・周遊促進にあたる仕組みが整えられております。

さらに一番下に記載のとおり、今年度、観光庁から万博レガシー事業として関西広域への誘客などに充てる費用として2億5,000万円が計上されております。

全体といたしまして、ONE KANSAI の視点を持った広域観光促進の取組みが加速する方向となっております。今後、随時この会議において取組み状況を報告しながら、ご指示をいただきたく存じます。

以上でございます。

【松本代表】

どうもありがとうございました。

それでは、ただいまご説明がありました資料4の内容につきまして、ご意見・ご質問のある方は挙手をお願いいたします。

【松本代表】

レガシーの中で、観光というものはかなり異質な問題であると考えています。

関西には関西観光本部があって、関西広域連合もあって、広域DMOとして存在しています。

それに対して、やはり先立つものがない第一段階として、このたび経済界としてはお金を集めました。今後推進するにあたって大変なコストがかかるので、これをどうしていくかが課題であります。ここにお金を投じることによって、関西に元々ポテンシャルが出せる観光分野で十分活用できると考えています。短期間で観光というのは難しいかもしれないが、関西観光本部が2030の中長期計画の中に明記しているものをもう一度このメンバーでレビューしていただいて、何が足りないのか、どこを押せばいいのか、具体的な案として出来ているので、これをベースに徹底的に目標・時間軸を決めて、「ここまできたら6兆円」「ここまできたら6.5兆円」というように決めて取組んでいきたい。

バイオテクノロジーなどレガシーの実装化・産業化とは違うアプローチが必要であります。私も観光にかなり期待しております。これまで関西の観光は、はっきりした数字がでていませんでしたが、万博を通じて非常に大きな成果をあげています。これを機に、関西広域連合と一緒に、もちろん商工会議所も同友会も一緒にやっていく必要があります。これは非常に早く効果が出るものと思っています。

#### 【三笠委員】

ありがとうございます。同友会としましても、関西の発展ということで万博のレガシーを色々議論を進めておりますので、今日いただいた大きな枠組みをしっかりと共有する中で、ご協力をいただきたいと思います。

#### 【鳥井委員】

観光は、重要な部分を占めると考えておりますので、大商も全力を尽くして支援していきたいと思います。

#### 【三日月委員】

先ほど説明があった資料、その後に松本会長をはじめ皆さまがコメントされた通りでありまして、おかげさまで万博以降、そこに向けて認知率や訪問意向率も上がってきておりますし、まさに関西こそが観光資源としてのコンテンツをたくさん持っていますので、そうしたものを磨いて、つないで、万博レガシーとしてもさらにもう一段上げていくという取組みを関西広域連合としても指向したいと思いますので、ぜひ今回、さらにレベルアップできるように取組んでまいりたいと思います。具体的な成果を上げられるよう取組みたいと思います。

#### 【松本代表】

どうもありがとうございました。「具体的な結果を出す」というのは、ベーシックポイントで我々委員はかなり責任があるなど感じています。他に意見はございませんでしょうか。

ありがとうございました。関西観光本部を中心となって進めていただいている取組みについて、未来創造会議としても共有・連携していくことが重要だと思っております。

それでは、本日予定しておりました議事は以上でございます。

これ以外にご発言はありませんでしょうか。

【経済産業省 松山首席国際博覧会統括調整官】

すいません、ありがとうございます。

大変活発な議論をお聞かせいただきまして、この大阪・関西万博、大阪・関西の皆様方と国も一緒になって、大成功することができたわけですが、成果検証委員会などもご参加いただきながら、この成果あるいはレガシーをどう次に繋げていくかと、国の全体の発展もそうでございますし、開催地である大阪・関西が、大きく飛躍、伸びていっていただくということが、このレガシーを残し、活用していく肝でございますので、国としてもしっかりと応援していきたいと思っております。

その中で今日も、次世代モビリティ、再生医療を始め、具体的な次に向けての取組みを着実に進めていただいているということ、そして、法人の設立も含め、具体的な実施の組織を検討いただいているということ、さらには、人の流れ、観光ということも含めて、会長の方からお話がありましたけれども、大きな時間軸を持って、どう動かしていくかという視点で、大阪・関西のトップマネジメントの皆様方がお取組みになっていらっしゃるという姿に、我々も大変心強く、嬉しく思っているところでございます。

成果検証委員会の中では、グローバル・ナショナルワイドという話と、大阪・関西ワイドという話で、剰余金の使い方も含めて案を作って、今パブコメを実施したところでございますけれども、この未来創造会議というのは、大阪・関西ワイドをどう進めていくか決めていっていただく重要な仕組み、仕掛けてございますので、そういう意味で活発な議論によって次に向けて、着実に進んでいくことを望んでいるところでございます。

特に、先ほど武田局長の方からもありましたけれども、新技術の実装のところ、先ほど松本会長からもありましたけれども、分野によっていろいろ違いがあるところでございますし、その程度におきながら、同時にこれはこの万博、国も一緒にやった話でございますので、これを通じてどう実現に持っていくかということ、戦略を描いていくことが非常に重要なことだと思っております。

そして、先ほどご紹介をさせていただきましたけれども、成長戦略本部の中で官民投資ロードマップの素案をお示しし、そして戦略産業クラスター計画の素案というのを公表して、各地域のプロジェクトが進んできているところでございますけれども、まさに、この未来創造会議の取組みを通じて、この大阪・関西に産業クラスターが形成されていくということは、まさに万博レガシーの、開催地としての産業としての飛躍ということを作っていく非常に重要なところであり、なかなか国の立場でどこの地域と言うわけにはいかないのですけれども、ぜひとも、これは成功裏に産業発展、経済発展、社会発展に繋げていただくことを期待しているところでございます。

あと、その法人の議論も今日あったかと思っております。様々な場を通じて議論を進めていただければと思っておりますが、国のサイドから考えますと、ナショナルワイド、グローバルワイドでこれを後押ししていくという取組みをこの博覧会協会のその後の展開として、例えば、ミyakミyakのIPの活用の仕方、イベントというものをいかに効率的にできるかということも含めて、今もう既に進めているところでございます。ですので、ここでの議論は、大阪・関西での実施・実装化、様々な取組みと、国のナショナルワイドで進んでいく取組みがいかに効率的、効果的に進めていけるかと、そういったことを念頭に、例えば、それぞれ1号業務、2号業務で一つの法人でもいいと思っております。一体的にこの地域、皆様方と国というレベルも含めて、進めていけるような仕組み作り、仕掛け作りということができたらいいなと我々も思っているところでございます。

いずれにしても、この未来創造会議にもオブザーバーとして参加させていただきますけれども、我々もしっかりと応援して、しっかり成果を出していくという会長の力強いお言葉もございましたけれども、これからも連携し

を進めていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

以上です。

#### 【松本代表】

はい、松山調整官、どうもありがとうございました。我々も一生懸命取り組みますので、政府、国の方もよろしくお願いいたします。本日予定していた議事は以上でございますが、他にございませんか。

#### 【横山委員】

すいません。ありがとうございます。またご説明もいただきまして、徐々にビジョンが固まりつつあるところかと思っております。

最先端技術の実装化・産業化、最初にご説明いただいた項目についてはですね、大阪市としても空飛ぶクルマ等を進めております。また、ライフサイエンスなども全力で進めていきたいところでございますので、この未来創造会議を通しまして、具体的に戦略を持って関係者の皆様と進めていければと思っております。

新法人についてもご説明いただきまして、資料にも記載いただいておりますが、3ページに今後のフェーズに分かれた進め方も記載いただきまして、記念公園ゾーン、大阪市域になります。ここでレガシーをどう発信していくかというのも重要になってくるかと思っております。この拠点は、大阪にあるものの、合わせましてソフトコンテンツの整備、整備費としてはグローバル・ナショナルワイドに分けられているところかと思うのですが、この連携というのは、夢洲のある場所でリンクが残るとするのは非常に重要だと思っておりますので、今後、国の皆さんとしっかり連携しながら、また会長の方からもありましたが、役割は明確にしながら進めていければと思っておりますので、またよろしくお願いいたします。

以上です。

#### 【松本代表】

はい。どうもありがとうございました。

それでは、ご発言も尽きたようでございますので、本日の審議・意見交換は以上となります。

最後に共同代表に閉会の挨拶をお願いしたいと思います。鳥井共同代表、お願いします。

#### 【鳥井共同代表】

大阪商工会議所の鳥井でございます。

本日、万博レガシーの取組みにつきまして、委員の皆様からご賛同賜りまして、大変心強く、嬉しく思っております。今日話を聞いてみますと、2025年大阪・関西万博は終わっていない、新たに始まるのだということを申し上げております。また、「いのち輝く未来社会のデザイン」も、現実のものになりうるということを改めて思ったところでは。

一方、イノベーションであるとか技術革新であるとかその関係としては、なかなか簡単なことではありません。今後、困難なことが立ちはだかるでしょうが、5年間、一つ一つ乗り越えていくことが必要だと思います。こうして関西のトップが一堂に集まって、万博のレガシーを現実のものにしていくというリーダーシップを取っていただけま

すことは、人々を大いに勇気づけるものであろうと思います。

社会課題が複雑化しまして、一つの自治体、一つの企業では解決がなかなか難しい時代になっております。大阪・関西が一体になって、幅広い主体が連携をしながら、新しい未来を創っていくことが重要であります。2025年大阪・関西万博の成功を、日本も世界も見ています。鉄は熱いうちに打てという言葉どおり、引き続きご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます、閉会のご挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

**【松本代表】**

はい、鳥井共同代表、大変丁寧なご挨拶ありがとうございました。それでは以上をもちまして、本日の第2回未来創造会議を終了させていただきます。本日はお忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございました。

**【関西経済連合会 関専務理事】**

皆様、ありがとうございました。次回は8月頃を目途に開催し、カーボンニュートラル分野のプロジェクト選定、支援方針の決定等についてご報告させていただければと存じます。

改めて事務局よりご案内いたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上